



介護施設夜勤実態を記者発表



2月23日、日本医労連は「2014年介護施設夜勤実態調査」の記者発表を行いました。

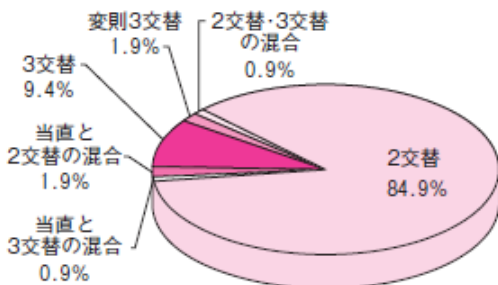
介護施設の約9割が2交替夜勤となっていることや小規模施設では一人夜勤が当たり前のように実施されていること、利用者の生活に合わせたシフトを組むために介護職員の負担となっていることなど、調査を通して明らかになった介護現場の実態を発表しました。

また、夜勤の改善、介護現場の労働環境の改善には、介護報酬の引き上げが不可

欠であるとして、日本医労連が「介護報酬の引き下げ」に対しても撤回を求めて取り組みをすすめていることに対し、強い関心が寄せられました。

記者発表には10社以上のマスコミが集まり、現場から参加した介護職員の話にも熱心に聞き入り、取材の申し入れなどもありました。

夜勤形態(施設単位)

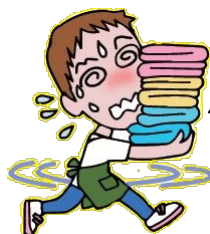


平均夜勤回数(2交替)

	2014年			
	4.5回以上割合	平均夜勤回数	最多夜勤回数	夜勤専門
特養	47.5%	4.4回	8回	4人
老健	23.3%	3.9回	9回	8人
G H	55.1%	4.6回	11回	10人
小規模&複合型	22.8%	3.8回	12回	6人
短期入所	38.1%	4.2回	8回	8人

夜勤実施者に占める非正規職員の割合

業態	施設数	夜勤に入った人数	うち非正規職員人数	割合
特養	15	325人	23人	7.1%
老健	39	1116人	61人	5.4%
G H	24	232人	59人	25.4%
小規模多機能	14	88人	30人	34.1%
複合型	3	25人	14人	56.0%
短期入所	15	190人	48人	25.3%



現場の人手不足をオーバーワークで補うのはもうやめにして、現場から改善の声を上げようよ～
介護報酬の引き下げなんて絶対許さないぞ～!